

3 議 案

第 1 号議案 議事録署名人選任の件

定款第 30 条第 2 項にもとづき、次の二名を選任する。

1

2

第 2 号議案 平成 30 年度事業実績の件

平成 30 年度（2018 年度）事業報告

1. 全体評価まとめ

平成 30 年度は認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター（以下「エコセンター」という。）が設立されてから 15 年目を迎え、平成 29 年度に策定したエコセンター中期計画(後期)の初年度に当たる重要な節目の年度であった。また、エコセンターを取り巻く状況も大きな変化があった。世界的にはパリ協定、SDGs、ESD、ESG 投資など、持続可能な社会づくりへの方向性がより強化され、それを受けた形で区においても第 2 次エコタウンえどがわ推進計画の初年度にあたり、区民や事業者、区による地球温暖化対策への取り組みが一層求められる年度となった。

また、自然環境の保全の面では 10 月に都内で初めて葛西海浜公園がラムサール条約湿地に登録され、環境保全とともにワイズユースの一環としての活動に注目が集まった。

こうした中、エコセンターは時代の変化を的確に見据えるとともに 1 年を通して、地球環境への負荷を減らしながら、活力ある地域社会を創造するため、区民・事業者・区が連携・協働して「日本一のエコタウン」を実現する活動に意欲的に取り組んだ。事業数はより効果を高めるため絞り込みを行った結果、238 件の実績となり、前回より 17 件減少したが、参加者数は 21,013 人に及び「区民・事業者・行政との交流・連携推進事業」を中心に前回は 594 人上回ることとなった。会員数もエコカンパニーえどがわの登録事業者を中心に伸ばすことができた。

平成 31 年 3 月には「認定」を取得し、NPO 法人としての社会的信頼や透明性の向上、法令を順守した適正な法人運営、スタッフのモチベーション意識の更なる向上等が期待できることとなった。

2. 主要事業別評価

- (1) グリーンプラン推進校は、ESD（持続可能な開発のための教育）が注目されている中、小中学校における環境教育への関心が高まりをみせており、出前授業は16校35回実施、2,741人の参加実績となった。
- (2) おきがる環境講座は、地球温暖化と異常気象、水素社会の現状、プラスチック海洋汚染問題、食品ロス削減、ラムサール条約登録やSDGsといった最近の話題を取り入れ、一般区民にも親しみやすい魅力ある内容の講座を実施することができた。
- (3) みどりのカーテンの普及啓発事業は、エコカンパニーえどがわや小中学校等団体が参加しやすいよう、夜間の時間帯を追加して講習会を実施したことにより、一般区民に加え事業所や団体の参加が増加し、前年度の参加件数を上回る479件の参加があった。
- (4) エコカンパニーえどがわは、新規登録が24件あったものの、活動が行われていない事業所の整理等を行った結果、累計336件となり29年度と比較すると大幅な減少となった。しかし、制度の趣旨に沿った取り組みを行う事業所に絞ることができ、制度の質の向上につながった。
- (5) 子ども未来館との共催で実施してきた「新川を知ろう！体験教室」は、新川の紹介やそこに生息する生き物の観察会等により、子どもたちに自然環境の大切さを学んでもらうという初期の目的は達成できた。平成31年度はこのノウハウを生かし、ラムサール条約登録湿地での体験教室を実施することとなった。
- (6) 行政や関係団体と連携し、葛西海浜公園のラムサール条約湿地登録に向けたPR・保全活動が実を結び、10月に登録された。登録後も、海の保全活用懇談会や登録記念イベントへの参加等、都や区のサポート役として協力することができた。
- (7) NPO法人の「認定」取得に向け、第三者組織評価の実施や認定取得セミナーの受講とともに、日々の業務における会計管理や文書管理等の入念な整備を行った結果、3月に「認定」を取得することができた。

3. 次年度へ向けた重点課題・対策

世界気象機関によると平成29年度の大気中のCO₂濃度は過去最高となり、異常気象や海面上昇の原因とされる地球温暖化が一層進む懸念があると発表された。日本においても近年、自然災害が多発し、生態系へも大きな影響が及んでいる。環境省の平成31年度重点施策の中でも、社会は大きな転換期を迎えており、環境、経済、社会においても諸課題に直面し、特にSDGsやパリ協定など、脱炭素社会に向けた時代の転換点が到来しているとの認識である。環境保全と経済・社会的課題の同時解決を目標とするものが地域循環共生圏であり、江戸川区においてもラムサール条約湿地となった葛西海浜公園をはじめとする自然豊かな地域資源を生かすことにより、地域の活性化を進める可能性を秘めており、今後の取り組みの充実が望まれている。

こうした状況を踏まえ、エコセンターとしても、これまで進めてきた区民、事業者、区が連携して取り組んできたもったいない運動の推進や地球温暖化防止対策、資源循環型社会づくり、自然環境保全とともに環境教育・人材育成、エコカンパニーえどがわ制度の更なる充実に努めていく。

また、認証から認定NPO法人に変わったことによるメリットを生かし、エコセンターの活動などの周知に努め、会員の増加や寄付金等の募集に努めていく。

- (1) 出前授業は、地球温暖化防止に関する新たなプログラムメニューとして、南極観測隊OBによる「(仮)南極から知る地球温暖化の現状」といった新たなプログラムを追加していく。
- (2) 「おきがる環境講座」は、若い年齢層の参加が少ないため、その時々話題性のあるテーマや

トピックを取り入れ、生活に直結する魅力あるプログラム構成に努めていく。また、環境について学ぶ講座として、座学だけでなくバス見学会や観察会等、実際に現場を見て学ぶ企画を増やしていく。

- (3) みどりのカーテンモニターの件数は増加しているものの、実施後の報告書の提出数が伸び悩んでおり、今後はインターネットを活用した報告書の提出方法等も選択肢として検討していく。
- (4) マイクロプラスチック海洋汚染問題は、世界的にも注目されてきている反面、区民の関心は高まっておらず、今まで以上に区民にも関心を持ってもらう必要がある。今後もシンポジウムの開催とともに、世界の現状を視覚的に訴えかける展示の実施等、取り組みを充実していく。
- (5) エコセンターのキャラクターリニューアルに伴い、今後はキャラクターを活かしたリーフレットやグッズ（ピンバッジ、ペーパークラフト、缶バッジ等）を作成していき、子どもから大人まで幅広い世代へエコセンターのPRを行っていく。
- (6) エコカンパニーえどがわ登録事業所については、取り組みが徹底されていない事業所の整理を行ったことにより、登録件数が大幅な減となった。今後は、既存の登録事業所へのフォローやガイドのリニューアル、レポート書式の見直し等を行い、制度の更なる充実に努めていく。
- (7) NPO 法人としての「認定」の取得を契機に、今後も組織の透明性や公益性を保ちつつ、様々な媒体を活用してエコセンターの組織や事業活動について、情報発信を行っていく。また、これを機にパンフレット等を刷新していく。特に2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、外国語版の作成にも取り組んでいく。
- (8) 葛西海浜公園のラムサール条約湿地登録に伴い、登録地を見学する船上観察会の開催や地元小学校への出前授業等を通じて、ワイズユースの取り組みとしての環境教育の充実や生物多様性保全の取り組みを行っていく。

4. 事業評価

活動項目		平成29年度	平成30年度	増減
事業	事業数（件）	255	238	△17
	参加者数（人）	20,419	21,013	594
会員等	会員数（個人・団体）	449	548	99
	もったいない運動参加者数（※累計人数）	125,984	134,962	8,978
財務	区補助金実績（千円）	46,386	47,291	905
	民間等助成金実績（千円）	1,994	1,623	△371

5. 科目別事業評価

活動項目	事業数（件）	参加者数（人）
(1) 環境教育・環境学習の推進事業	57	3,461
(2) 人材育成事業	11	500
(3) 区民・事業者・行政との交流・連携推進事業	136	15,450
(4) 情報の提供及び支援事業	5	938
(5) 自然環境の保全と活用	29	664
計	238	21,013

(1) 環境教育・環境学習の推進事業

○結果・評価

- ①グリーンプラン推進校は、参加校アンケートで「また参加したい」という回答が多数を占めていること、また近年はリピーターの学校が増えていること等から、学校にとって魅力ある事業となってきた。
- ②グリーンプラン推進校の報告書の作成方法について、参加校からの要望もあり、中間報告の提出を無くした結果、各校の活動経過の把握が難しくなった。
- ③グリーンプラン推進校の自然環境教育について、年3回（季節ごとの変化）授業を行ったが、回を重ねるごとに子どもたちの自主性が生まれ、より充実した内容の授業を行う事が出来た。
- ④すくすくスクール放課後環境教育は、江戸川区教育委員会との連携により、10年間事業を継続実施してきたことから、平成30年度も22校から依頼があり、安定した実績数となっている。

○次年度への課題・対策

- ①出前授業は、近年、中学校の参加が増えていることから、中学生向けプログラムの充実を、検討していく。
- ②グリーンプラン推進校の活動状況把握のため、教員とのコミュニケーションの充実や活動日の見学回数を増やしていく。
- ③出前授業の新たなプログラムメニューとして、「南極OB会」の講師による、地球温暖化に関するプログラムを追加し、そのPRも進めていく。
- ④すくすくスクール放課後環境教育は、現在実施運営を1団体だけに任せており、講師やスタッフの高齢化も進んでいるため、後継者の育成や新たな講師・スタッフの開拓を検討していく。

(1-1) 学校等環境学習支援

項 目	計 画	実 績
環境学習支援（グリーンプラン推進校）	11校	11校（累計133校） （説明会・報告会1回/20人）
小中学校出前授業（総合学習等）	45回/3,300人	16校 35回/2,741人
すくすくスクール放課後環境教育	25回/800人	22回/720人

(2) 人材育成事業

○結果・評価

- ①おきがる環境講座は、これまでの比較的環境への関心が高い層をターゲットとした内容から、地球温暖化と異常気象、水素社会の現状、プラスチック海洋汚染、食品ロス削減、ラムサール条約登録やSDGsといった最近の話題をプログラムに取り入れ、一般区民にも親しみやすい魅力ある講座にすることができた。
- ②おきがる環境講座では、江戸川区との連携により、区が策定した第2次エコタウンえどがわ推進計画の概要紹介や食品ロス削減に向けた施策の紹介等、区の取り組みを直接区民に伝える窓口としての役割を果たすことができた。なお、第2回おきがる環境講座では親子を対象とした、水素社会を推進する東京都や燃料電池バスを開発したトヨタ自動車㈱等と連携することで、次世代のエネルギーが開く未来について楽しく学べる講座を提供することができた。

③第3回おきがる環境講座では、気象予報士を講師に迎え、地球温暖化と異常気象の未来予測をテーマとした講座とし、第6回での「首都圏外郭放水路」見学では、記録的猛暑と頻発する水害に対する防災対策を学ぶ講座とする等、タイムリーな内容の講座を提供することができた。

④環境講演会は、エコカンパニーエドがわ登録事業所向けに、廃線寸前の「いすみ鉄道」を立て直した鳥塚亮氏を講師に招き、「経営改善策と地域活性化策」をテーマとして講演会を実施し、大変好評を得た。

○次年度への課題・対策

①おきがる環境講座では、引き続き江戸川区の施策を伝える窓口となるよう区と連携を図っていくとともに、SDGsを念頭に環境以外の分野との連携についても検討する。

②区の受託事業である「おきがる環境講座」は、講座の質の向上と参加者数の拡大に向けて、事業の評価項目を設定し、自己評価を取り入れながらカリキュラムの作成を進めていく。

③SDGsの視点の一つでもある地球温暖化について、その影響にどう対処するか（適応策）、その影響をいかに抑制するか（緩和策）を同時に学ぶことが重要になっているため、地球温暖化や異常気象についての正確な情報提供と実地見学を組み合わせたプログラムを検討する。

④おきがる環境講座は、より多くの区民が環境について学び、自ら行動を起こすきっかけづくりの場となっていくよう、今後もタイムリーな話題と正確な情報提供に努めていく。

(2-1) 環境学習リーダー養成講座

項目	計画	実績
おきがる環境講座（受託事業）	10回/300人	9回/427人

(2-2) 講演会

項目	計画	実績
環境講演会	1回/100人	1回/55人

(2-3) 地域活動支援

項目	計画	実績
もったいない講座（出張講座）	実施	1回/18人

(3) 区民・事業者・行政の交流・連携の推進事業

○結果・評価

①エコセンターのキャラクターをリニューアルし、クリアファイルや情報紙「エコちゃんねる」等のエコセンターをPRするグッズや冊子に活用できた。

②みどりのカーテンモニター講習会について、エコカンパニーエドがわ等団体向けの講習会や夜間の時間帯に実施した事により、団体モニターが増加し、過去最高の参加者数となった。

③若者や男性のマイバッグ普及促進のため、エコバッグのリニューアルを行った。作成にあたり、大学生にデザインや形状に関するアンケートを実施する等、若者の意見を取り入れて、新たなオリジナルエコバッグを作成した。

④平成29年度に引き続き、マイクロプラスチック海洋汚染問題に関するシンポジウムを開催したが、参加者数がまだそれほど多くはなく、区民にその重要性が浸透していないと思われる。

- ⑤平成 30 年度より区内 10 か所の地域まつりで、区清掃課と連携してフードドライブを実施し、結果として、約 400kg の未利用食品を回収する事ができた。
- ⑥エコカンパニーえどがわ PR 用リーフレットを作成し、東京商工会議所江戸川支部や法人会等の会合に出向き、制度の紹介をする等の加入促進を行い、登録件数増加のための PR 活動を実施した。

○次年度への課題・対策

- ①リニューアルしたエコセンターキャラクターを活用して、エコセンターの更なる認知度向上のため、PR グッズ（ピンバッジ、ペーパークラフト、缶バッジ等）作成等の検討を継続して行っていく。
- ②みどりのカーテンモニター講習会について、参加者数は増加しているものの、報告書の提出率向上が課題である。そのためインターネットを活用する等、参加者の負担を減らす工夫を検討していく。
- ③若者へのマイバッグ普及に向けて、地域まつりだけではなく、若者が多く集まるイベントや、区内高等学校・専門学校等でエコバッグを配付する等、若者にマイバッグがさらに浸透していくような普及啓発を検討していく。
- ④世界的に注目されているマイクロプラスチック海洋汚染問題について、区民に関心を持ってもらうため、実際に起きている海外の現状をパネルで展示する等、視覚的に訴えかける展示の取り組みを検討していく。
- ⑤フードドライブ事業について、平成 30 年度は回収した未利用食品を区外のフードバンクへ提供してきたが、区内循環の観点から、平成 31 年度は区内のフードバンクを活用し、フードドライブ事業の普及啓発について努めていく。
- ⑥エコカンパニーえどがわ登録事業所について、取り組みが徹底されていない事業所の整理を実施したことにより、登録事業所の大幅減少となった。既存登録事業所へのフォローや制度の充実、引き続き新規登録に向けた PR 活動を行っていく。

(3-1) もったいない運動えどがわの推進

項 目	計 画	実 績
もったいない運動登録者の拡大	132,000 人	134,962 人
環境フェア	5,000 人	5,000 人
地域イベントへの参加	14 回/7,000 人	16 回/8,270 人
もりあげ隊（ボランティア参加者数）	実施	実施

(3-2) 省エネ・新エネルギーの推進

項 目	計 画	実 績
家庭の省エネ診断・説明会	4 回/50 人	説明会 4 回/18 人
環境に配慮したエコライフ講座、講習会等	19 回/350 人	10 回 101/人 (エコ・クッキング [※] 2 回/28 人)

項 目	計 画	実 績
みどりのカーテンの普及啓発	17回/450人	講習会等 17回/386人 交流会 1回/8人 環境フェア 85人
キャンドルナイト（スタンド作り）	実施	3回/25人

(3-3) 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

項 目	計 画	実 績
マイバッグキャンペーン	春・秋2期	春・秋2期
フードドライブ（未利用食品の回収）	実施	10回/70件
3Rに関する講座・講習会等	70回/1,200人	65回/855人
エコセンターおもちゃの病院	12回/300人	12回/379人

(3-4) 事業者の取り組み推進・支援

項 目	計 画	実 績
エコカンパニーエドがわ登録事業者の拡大	60件	24件（累計336件）
エコカンパニーエドがわ普及啓発講座	1回/100人	1回/55人
ece登録事業者への省エネルギー相談	実施	実施

(3-5) 商店（街・会）やスーパーのエコ活動支援

項 目	計 画	実 績
商店街主催イベントへの支援	2回/200人	雨天のため参加中止

(3-6) イベント等への参加

項 目	計 画	実 績
産業ときめきフェア	200人	2日/200人
大型商業施設タイアップ事業 （イオン葛西店）	実施	2回/112人

(3-7) チャレンジ・ザ・ドリーム（中学生職場体験）

項 目	計 画	実 績
チャレンジ・ザ・ドリーム （中学生職場体験）	実施	2校/11人

(4) 情報の提供及び支援事業

○結果・評価

- ①エコセンターのホームページを、見やすさ・分かりやすさを重視しリニューアルしたことにより、どの年代にも受け入れられる使いやすいデザインや内容になった。

- ②情報紙「エコちゃんねる」に、ラムサール条約登録特集や身近な自然に親しむことのできる講座・イベント紹介を掲載することで、会員以外の人でもエコセンター事業に関心を持てる内容となった。
- ③「活動団体紹介チラシ」を作成し、各地域まつりや各種講座等で配布し、エコセンターで活動する各団体や委員会のPRと会員やもりあげ隊の募集に努めた。
- ④エコセンターオリジナルエコバッグのリニューアルの際に、若い世代への普及を考え、大学生にデザインや形状、材質に関するアンケートを行い、その結果を反映し、新たなエコバッグを完成させることができた。

○次年度への課題・対策

- ①ホームページにおいて、事業実施前の告知だけでなく、事業実施後の結果報告を掲載していくことにより、エコセンターの活動を更に詳しくわかりやすく発信していく。
- ②情報紙「エコちゃんねる」を通して、読者に環境について学び、関わることの楽しさを伝えていくとともに、情報の発信だけでなく、エコセンター事業に対する意見や提案等を行う等、エコセンターと読者が相互に情報交換できるような仕組みを検討していく。
- ③新キャラクターを使ったリーフレットやグッズ等を活用することにより、幅広い年齢層にエコセンター事業を知ってもらえるようPR方法を工夫していく。
- ④オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、海外からの来訪者へエコセンターをPRするため、外国語版のエコセンターパンフレット等の作成を検討していく。

(4-1) 情報の発信と提供

項 目	計 画	実 績
情報紙「エコちゃんねる」の発行	4回	46,48号 各2,000部 47,49号 各3,000部
ホームページの運営管理	実施	実施
リーフレットの作成 (葛西沖の生き物図鑑)	実施	情報収集等実施
多目的ルームの活用	実施	実施

(4-2) 他団体との連携・活動支援

項 目	計 画	実 績
江戸川総合人生大学への講師派遣	実施	実施
公園フェスティバル	900人	4回/907人
日本環境教育フォーラム等との連携	実施	実施

(4-3) 相談業務事業

項 目	計 画	実 績
会員等からの団体運営や事業等の相談	実施	実施

(4-4) 会員の拡大

項 目	計 画	実 績
会員向けの講演会・交流会の実施	実施	バス見学会 1回/31人
あらゆる機会を捉えたPR	実施	実施

(5) 自然環境の保全と活用

○結果・評価

- ①水辺環境調査は、天候等の影響により一部調査が不完全な部分があったが、事前調査や事後調査を実施したことにより、全ての区間の調査を行うことができた。
- ②東京都や江戸川区、関係団体と連携してPRや保全活動に取り組んできた葛西海浜公園が、平成30年10月にラムサール条約湿地に登録されることとなった。
- ③「新川を知ろう！体験教室」は、新川の紹介やそこに生息する生き物の観察会等により、子どもたちに川に親しんでもらうという初期の目的は達成できた。
- ④東なぎさクリーン作戦では、法政大学の学生が参加したことにより、大学生にフィールドワークの場を提供するとともに、エコセンター事業を知ってもらうことができた。

○次年度への課題・対策

- ①水辺環境調査は、後継者の育成が課題となっており、新たな調査員の発掘や育成に努めていく。
- ②ラムサール条約湿地登録に伴い、ワイズユースの取り組みの一環として、登録地を船から見学する船上観察会や地元小学校での出前授業等の新たな取り組みを行っていく。
- ③「新川を知ろう！体験教室」で得たノウハウを生かし、平成31年度はラムサール条約登録湿地において、生物多様性や自然環境保全を学ぶ体験教室を実施していく。
- ④東なぎさクリーン作戦に大学生が参加したことをきっかけに、引き続き大学生との連携を進め、他の事業にも大学生が参加・協力してもらえるよう調整を行っていく。
- ⑤プラスチック海洋汚染問題についてマスコミ報道がよく聞かれるようになった昨今、海ごみを拾うことによって自然環境や野生生物の保全・保護につながるということが、広く認識されるようになってきた。この関心を、ラムサール条約のワイズユースの普及につなげていくよう事業の充実に努めていく。

(5-1) 水辺環境調査

項 目	計 画	実 績
新中川、江戸川・旧江戸川、荒川、葛西沖の水辺環境調査（受託事業）	植物3回/鳥類3回/ 魚類・底生動物1回/ 船上調査（植物・鳥類・ 魚類・底生動物）1回	植物3回/鳥類3回/ 魚類・底生動物1回/ 船上調査（植物・鳥類・ 魚類・底生動物）1回

(5-2) 自然復元・再生事業

項 目	計 画	実 績
河川や海岸のクリーン作戦を通じた自然環境の復元を進める	160人	1回/77人

項 目	計 画	実 績
絶滅種や生物多様性に関する啓発を進める（ムジナモ・ビオトープ）	100 人	4 回/59 人

(5-3) 自然観察会・えどがわ自然学校

項 目	計 画	実 績
えどがわ自然学校や自然観察会等を通じ、自然に触れる	450 人	14 回/375 人
一之江境川親水公園自然観察会	130 人	(台風接近のため中止)
新川を知ろう！体験教室	40 人	92 人

(5-4) ラムサール条約の登録・生物多様性の保全

項 目	計 画	実 績
葛西三枚洲地域のラムサール条約登録	実施	実施
関係機関・関係団体・地域との連携	実施	実施
チャレンジデーでの自然観察会	30 人	17 人